

中城御殿跡地整備検討委員会(第1回) 議事要旨

日時：2021年7月14日(水) 14:00～16:00

場所：沖縄県市町村自治会館 2階 大会議室

1. 中城御殿跡地整備に向けて

- 首里城復元に連動し中城御殿跡地整備を進めていく必要がある。
- 中城御殿の完成に向け整備方法等も含め本委員会で検討していく。

2. 検討委員会での検討対象地について

- 検討対象は松崎馬場だけでなく龍潭周辺まで広げて考えてほしい。世持橋からの眺めを含め、中城御殿周辺の環境づくりや周遊促進の視点を考えると龍潭一帯を含めることは重要である。
- 首里社地区整備検討委員会とも連携し、龍潭周辺の整備についても合わせて検討していく。

3. 文化財指定を見据えた整備水準の考え方について

- 中城御殿跡地の発掘調査がほぼ完了しており調査報告書をまとめている段階である。
- 龍潭一帯は将来の名勝指定にふさわしい整備とする必要がある。同じく中城御殿跡も国指定文化財を目指した手順や整備のあり方を検討したい。本来の姿を損なうものにならないよう、文化財部局とも連携し、文化財的にふさわしい整備を検討する必要がある。
- 発掘調査の結果、非常に良好な当時の遺構が残っており、今後の文化財指定について文化庁とも調整を行う。
- 中城御殿は王国末期に移転してきた屋敷であり、それ以前には複数の屋敷があり、その遺構の扱いも視野に入れる必要がある。歴史的背景を念頭に、いつ頃の時代のものを重点的に整備していくのかという検討も必要である。
- 龍潭も発掘調査は行われていないため、龍潭成立の究明は行われていない。龍潭の成立史を把握するという課題もある。
- 正門西側の石牆下から龍潭通りに飛び出している井戸(遺構復元)は、文化財の整備として井戸遺構が見つかった経緯が伝わりにくい。また、歩行の支障になっていて危険なため、この機会に見直してほしい。

4. 中城御殿跡地整備基本計画に関する改定の考え方について

■展示・収蔵計画

- 展示・収蔵対象に、中城御殿跡地の出土遺物を加えるべきである。
- 容積確保のための一部2層化については、前提とするのではなく一つの選択肢であり、できるだけ往時の外観を尊重しながら検討していく。
- 地下の大部分に遺構が残っているため、現行の基本計画と同様、これらの遺構を盛土保護した上で、その上部に建物を整備することが前提になる。
- 収蔵スペースが限られるため、コミュニティ機能のスペース等についての見直しも視野に入れた検討が必要だろう。

■防災対策

- 木造の表御殿東側エリア、RC造の特別展示エリアという構成は、首里城正殿と他の建物と似た構成となっており、首里城火災の教訓を踏まえて防火対策が重要である。
- 避難計画、避難経路の確保も重要となるため、合わせて検討する必要がある。

■管理体制

- 価値の高い美術工芸品を安定的に維持管理していくためには、修復や研究を安定して継続できる仕組みや体制づくりなども含め、美術工芸品の所有と管理のありかたについての検討が必要ではないか。

■コミュニティ機能

- コミュニティ機能（表御殿西側エリア）は当時の地域意向も踏まえ計画された。計画策定以降の社会状況の変化等も踏まえ、改めてニーズ把握が必要ではないか。
- 展示収蔵機能の拡充に関連し、様々な機能が必要になってくる可能性があるため、コミュニティ機能の必要性を改めて検討する必要がある。

■外構・庭園の整備方針

- 上之御殿エリアでは、石垣や石段などの遺構を露出させてそのまま活用してはどうか。その際、遺構の欠損を補うなどの整備は発生するが、文化財課とよく調整し文化財レベルの整備をすべきである。
- 北側の石垣や門など、敷地境界部の景観は大変重要である。周辺街路と一体的に考えてほしい。

■敷地周辺の整備について

- 上之御殿庭園は、龍潭と首里城を望む優れた眺望地点である。周辺地を含めた景観や視点場の確保についても検討してほしい。
- 周辺街路についても中城御殿との関係が非常に強く重要なため、市道も含め、合わせて整備を検討する必要がある。
- 首里の旧道は多くの石畳が残っていた。敷地北側市道についても石畳にするなど、那覇市への協力をお願いしたい。

■その他

- 中城御殿だけで完結せず、地域内での他施設との連携を考える必要がある。県立芸大も地域に開かれた存在であり、中城御殿と大学との連携や機能分担は重要である。
- 中城御殿跡地周辺には、古道や名所旧跡等の首里らしいものが蓄積している。概念的でもいいのでそのなかでの中城御殿の役割や位置づけを検討していくことも必要である。

以上